

# 県内「住み続けたい」54%

## 淑徳大読売

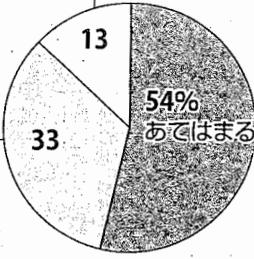
⑤

### 共同千葉県調査

「淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査」では、県内での居住継続意向と現居住地での居住継続意向を尋ねた。その結果、県内に住み続けたいと

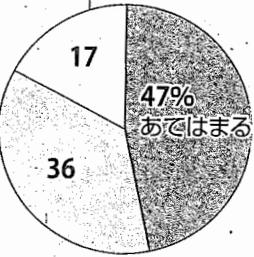
の回答は過半数に上った。県内出身者にその傾向が強い。ゾーン別では、香取・東総、内房の居住者に、住み続けたいという回答が目立った。県内にずっと住み続けたいかを尋ねた質問では、「あてはまる」が53.8%で半数を超え、「あてはまらない」の回答(13.0%)の4倍以上だった。

あてはまらない



県内に  
ずっと住みたい

あてはまらない



このまちに  
ずっと住みたい

※小数点以下は四捨五入

## 環境満足度と相関

性別では「あてはまる」と答えた女性は56.3%で、男性(51.7%)を上回った。10歳刻みの年齢層別では、どの年齢層も「あてはまる」が5割台を占めた。生まれからずっと県内に居住する人の65.5%が「あてはまる」を選んだ。転入者(45.2%)を約20%上回り、県内出身者に住み続けたい意向が強い。

「あてはまる」の回答をゾーン別でみると、香取・東総は62.2%、内房は60.8%で、この2地域の居住継続意向の比率が高かった。東葛・湾岸は51.5%と最も低かったが、「どちらともいえない」の中間的な回答が35.2%とゾーン別では最も多く、県内

居住に否定的とまでは言えない。

現在住んでいるまちに住み続けたいかも質問した。「あてはまる」は46.8%で、「あてはまらない」(17.0%)の3倍近くだった。

地域環境に対する評価との関連を分析するため、①通勤・通学の利便性②買い物の利便性③医療・福祉・文化施設など10項目についても質問。「満足」「不満」「どちらともいえない」の3分類で回答を集計した。

質問はほかに、④福祉・介護サービス⑤子育て支援サービス⑥治安の近隣住民やコミュニティ⑦のつながり⑧住環境⑨公園などの自然環境⑩まちなみ・景観——を留意した。

項目ごとに分析すると、「満足」と回答した人の60%前後、70%前後が、現居住地にずっと住みたい意向を示していた。例えば、①通勤・通学の利便性については2640人が「満足」と回答。このうち、

1642人(62.2%)が、現在の居住地に住み続けたいかを尋ねる質問に「あてはまる」と答えていた。

一方で、項目ごとに「不満」と答えた人の40%前後、50%前後の人は、住み続けたいかを尋ねる質問に「あてはまらない」と回答していた。

地域環境を整える施策で居住者の満足度を高めることが、居住継続の意向を高め、定住促進への近道になると言えそうだ。

(おわり、奥村登が担当しました)

### 調査結果 淑徳大HPでも

「淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査」は、淑徳大学コミュニケーション政策学部の山本功教授の研究グループ(9人)が、読売新聞千葉支局と共同で実施した。調査結果は6月以降、淑徳大学のホームページでも公開する。